

事業活動実績報告書

施設名	幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園
教育理念	○子ども達一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体と優しい心、人と関わる力、たくましさを育てていく。 ○遊びを中心に主体性を大切に一人ひとりの個性・発達の姿に応じた援助・保育をする。

1 事業名	野菜の栽培などを中心とした食育に重点を置いた保育
2 実施期間	令和 7年 5月 19日 ～ 令和8年3月10日

3	取組概要	(取組日) 令和 7年 5月 19日 ～ 令和 7年 7月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		胡瓜とトマトの苗を植えた。茎が柔らかく今にも折れそうだった為、子ども達も自然にやさしく扱い、植える姿が見られた。自分達で土の用意から苗を植えるまで行っている為、成長を楽しみにしていた。	
		(取組日) 令和7年5月19日 ～ 令和7年7月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		園庭周りにプランターを設置した為、登園時や戸外遊び、降園時など毎日観察を楽しんでいる姿が多い。水やりも自ら進んで行う姿が多かった。幹が伸びはじめ支柱に絡みながら伸びていく様子に興味を示していた。	
		(取組日) 令和7年5月19日 ～ 令和7年7月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		胡瓜では、黄色い花が咲き、咲いたところから小さい赤ちゃんがなると大喜びで周囲に知らせたり、小さい胡瓜を可愛いと愛おしがる姿が見られた。成長が早く、すぐに大きくなることに驚き、大きくなった胡瓜の数を数えていた。また、葉の触り心地が他の植物の葉と違うことにも気づき、【ゴワゴワしている。】【ざわざわしてる。】【毛がたくさん生えている】など色々なことに気づいたことを友達同士でも話していた。	
		(取組日) 令和7年5月19日 ～ 令和7年7月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		トマトの実が生り始めると、緑から赤に変化していく過程が子ども達にとってとても不思議だったようだ。週明け、完熟し、実が落ちパンクしている様子を見て残念がっていた。胡瓜・トマトが苦手な子が多いが、家庭では食べられなくても園で育てた野菜は子ども達が自分から食べようとする姿が多く、おいしいとお代わりをするほどであった。	

3	取組概要	(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		日本の伝統文化の一つでもあるお茶について知る機会を作り、茶器について知らせたり、実際にお茶煎れるところを見せた。そして、各家庭でお茶を飲んでいるのか？茶器はあるか聞くとなかなか多く感じた。飲みきれない為、初めは薄くお茶を入れても苦みを感じていたが、徐々にお茶の味を美味しいと感じられるようになり、子ども達からお茶の時間にしようという声がかかるようになった。茶殻を煎り、消臭剤を作り各家庭に持ち帰っている。茶殻を煎る工程が楽しいようで毎回楽しんでいる。保護者の方々も喜んでいただき好評である。お茶を飲む時の香りと茶殻を煎る時の香りの違いに気が付く子もいた。	
		(取組日) 令和7年6月18日 ～ 令和7年6月18日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		日本料理には欠かせない【だし】を子ども達と一緒に学んだ。様々な料理の素になるだしの種類を知った。その中でも味噌汁などに多く使われる鰹だしについて学んだ。鰹節が出来るまでの工程、鰹節の使い方などを知ってから鰹だしを実際に食した。初めに鰹節の香りを嗅いだ。【いい匂い】という子が多かった。しかし実際に飲んでみると【美味しくない】と伝える姿が多かった。昼食でお味噌汁が出ると【鰹節の匂いがする】とお出汁を感じながら食す様になり、ただ美味しいだけでなく、食材などにも興味が広がった。昼食で使用している出汁が変わったことに気づく子が多く驚いた。	
		(取組日) 令和 7年6月20日 ～ 令和7年6月20日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		5歳児が、身近な食材の【人参】【じゃが芋】【玉ねぎ】を使用してカレー作り体験を行った。3グループに分かれ、三角巾・エプロンを着用し行った。調理器具の取り扱いや、直材の調理方法なども事前に話をしてから行った。玉ねぎがかなり新鮮で目を痛がる子が多く、涙しながらも最後まで作り上げていた。	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		各グループ、野菜を切り終えた後に大鍋に野菜を入れた。ぐつぐつと煮込まれる様子やカレールーを入れた後の色の变化、匂いの变化も感じる事が出来た。年中児・年少児も大鍋を見学をし、自分達も進級し、カレー作りに参加できることに期待したり、昼食に食べれることを楽しみにしていた。昼食時は、何度もおかわりをし、空っぽのお鍋を見たりしていた。食後は、年長児に【ご馳走様】【美味しかったよ】などと挨拶する姿が見受けられた。	
		(取組日) 令和7年5月16日 ～ 令和7年5月16日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		今年度、畑を利用する前に子ども達と一緒に雑草を抜いたり、土を耕したり畑の整備を行った。その際、ダンゴ虫や、テントウ虫、みみずなどの様々な虫を発見でき喜んでた。畑の整備後、昨年、栽培した胡瓜から収穫した種を畑に蒔いた。	

3	取組概要	(取組日) 令和7年5月28日 ～ 令和7年11月17日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		農家さんと提携し、100本の稲を観察してから田植えの準備を行った。バケツの中で2種類の土を混ぜ、水を入れ土壌作りを行った。土の感触、水を含んだ後の土の感触など楽しみながら行うことが出来た。稲の束をそっと持ち田植えを行った。秋田の農家さんの田んぼとリモートで繋がり、園の稲の育ち具合と畑の様子と比べることが出来た。そして、広い田んぼの様子も画面を通して見ることで、毎回有意義な時間となった。	
		(取組日) 令和7年5月28日 ～ 令和7年11月17日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		バケツに田植えをする際、昨年枯れてしまった事を覚えており、どうしたら暑い夏に負けないかを考える姿も見られた。令和7年度も酷暑だったが、2バケツの稲が立派に育ち、稲穂を観察することが出来た。立派に育った稲にバツタを発見し、なかなか見ることのできないバツタも観察することが出来喜んでいた。	
		(取組日) 令和7年5月28日 ～ 令和7年11月17日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		園と農家それぞれで育った稲穂の大きさ、粳のつき方の違いに気づいたり、粳の殻をむいて白いお米が出来ていることに驚いたり、たくさんの発見・観察が出来た。お米が出来るまでの工程や一粒一粒のお米の大切さを知ることが出来た。提携していた農家より、新米を送ってもらい全園児でおにぎり作り体験を行った。自分達で握ったおにぎりは格別の味だったようでお代わりをしている姿も多かった。	
		(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		今年は、園の門近くにあるみかんの木に実がたわわに実り、毎日観察を楽しんだ。真みどりだった小さなみかんが徐々に大きくなり、色の変化や、重くなるにつれて枝が垂れ下がっていく様子や成長過程を見ることができた。1月には、立派な伊予柑が出来、みかん狩りを楽しんだ。皮が厚く、普段自分達で剥いているみかんとの違いを感じながら皮を剥いていた。	
		(取組日) 令和7年12月12日 ～ 令和7年12月12日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		昨年行ったみかん狩りを覚えている子が多く、美味しかったもぎたてのみかんを思い出し、友達同士で話をしていた。みかん狩りをする前にみかんについてパネルを利用して教えてもらった。美味しいみかんの見分け方や1房に何粒入っているか、収穫の仕方など子ども達は興味深く話を聞いていた。	

3	取組概要	(取組日) 令和7年12月12日 ～ 令和7年12月12日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		園庭に登場した36本のみかんの木。どのみかんの木にしようか、どれを収穫しようか、吟味している姿が多かった。枝をかき分けながら、背伸びをしながら好みのみかんを見つけ、みかん狩りを楽しむことが出来た。収穫したみかんを大切に持ち帰る姿や食べた時の感想など話をする姿も多かった。	
		(取組日) 令和7年12月16日 ～ 令和7年12月16日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		もちつきをするにあたっての事前準備物なども知らせ、もち米の下準備が大切であることも子ども達に知らせた。当日は、臼・杵・蒸籠などの特殊な道具について知り、使い方などにも興味を示していた。もち米を蒸かすための工程なども知り、家庭での炊飯器との違いにも気づいていた。そして、もち米の生米・蒸かしたもち米・搗いた餅を設置し、もち米の変化を見れるようにした。有志の保護者の方に協力を仰ぎ、もちつきを行った。力強く餅を搗く姿を見たり、年長児は実際に杵を持ちもちつきを行った。	
		(取組日)	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		(取組日)	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		(取組日)	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	

効果検証報告書（継続事業用）

施設名	幼保連携型認定こども園 めいしょう幼稚園				
教育理念	○子ども達一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体と優しい心、人と関わる力、たくましさ育てていく。 ○遊びを中心に主体性を大切に一人ひとりの個性・発達の姿に応じた援助・保育をする。				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
	健康 ◎	人間関係 ○	環境 ○	言葉 ○	表現 ○
1 事業名	野菜の栽培などを中心とした食育に重点を置いた保育				
2 事業概要	・畑や園庭プランターでトマト、キュウリ、枝豆、などを栽培。観察して食べる。 ・5歳児でカレー作り、餅つきを体験。全園児でのおにぎり作り体験。園行事でもほりを体験。 ・日本の文化である日本茶について知る。湯呑・急須などの茶器、茶葉の種類や用途、お茶の入れ方を知り、実際に園で、お茶を飲む時間をつくる。茶殻の再利用を考えたり、茶殻煎り体験をし、煎った茶殻の再利用を行う。(肥料・消臭剤など) ・移動果樹園を利用し、姉妹園でみかん狩りを行い、みかんの成長や実のなり方などを観察し、自然の恵みを実感すると共にいろいろな果樹に興味を示し、食への関心を広げていく。				
3 対象学級(クラス名) 対象人数	年少3歳児 年中4歳児 年長5歳児	(クラス名: きりん ・ ぱんだ) (クラス名: りす ・ うさぎ) (クラス名: くま ・ そう)	27名 35名 35名	97 名	
4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況				
	取り組みに必要な人員・・・担任・職員・保護者有志。 園児・保護者有志によるカレー作りでは、園庭に寸胴鍋を用意し、食への関心を広げていく。 食育に関する絵本・教材・パネルシアターを購入し、食への興味・関心を深める。 稲作農家と連携し、お米が出来るまでの過程を知る。 収穫した米を白米にする過程を知り、おにぎり作りにも参加する。				
計画時	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 園庭のプランターを利用して栽培を行うことが出来た。観察や収穫体験をし植物や食物への興味や関心が広がった。自分達で気づけたことや初めてのことで自分で出来たという経験から様々な場面で積極的な姿が多くなったようである。収穫したキュウリは浅漬けにして食した。自分で収穫したという気持ちや自分で調理した経験から苦手な野菜でも食べてみようとしたり、苦手意識を克服している姿もみられた。自分で調理したカレー、そして年長児が調理をしたカレーということもあり、いつもよりよく食べおかわりをしている姿が多かった。 農家と連携し、米つくりの過程を知ることで米一粒を作る大変さを知ることが出来た。お茶碗に米粒が残らないようにしようとする姿も見られるようになった。おにぎり作りを通して、年中・年少児も自分で作ったものを食べるという経験をし、食への興味が深まった。		
		5 事業のねらい	・食育を通して健康な身体づくりをする。 ・楽しく食べる事、食への興味、関心を通して食への意欲を育む。 ・食物を育てることなどを通して、生命を尊重し、いただきます・ごちそうさまの精神を学ぶ。 ・食べ物を無駄にしない。大切にすることで食品ロスをなくすなどのSDGsの問題を考えるようになる。 ・食事のマナーを身につける。(食育関連教材を使用。) ・野菜などの栽培を通して、農家の方々の仕事について関心を示したり、感謝の気持ちを持つ。		
計画時	事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 健康な身体づくりの為に毎日の食事の大切さを伝えたり、昼食の際に食物の栄養について知らせてきた。食べ物への大切さを理解できるようになってきたり、自ら食べれるものが増えたことを喜び、毎月の身体測定時に成長したことを実感し、更なる食への関心が深まっていると思われる。給食室とも連携を図り、昼食つくりの過程風景をスクリーン等で見たり、日本料理の基礎であるだしについても知らせてきた。実際にだしを飲む経験をしたことで、料理の香りや味に対して感想を伝える姿が見られた。栽培や米つくりの過程を知ることで、作って頂いた方へと食べ物への感謝の気持ちが芽生えた。また、食事の際の挨拶も感謝をしながら行うようになった。毎日の昼食の際、ご飯や汁物、おかず等の配膳時の位置を意識出来るように関わったり、箸やフォーク、スプーンの置く位置や向き持ち方なども意識出来るように関わり、食事のマナーと共に備わった。		

		計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等
		・畑やプランターで季節ごとの野菜を栽培する。 ・野菜の育ちを観察し、収穫した野菜に触れ、野菜の特徴を感じたり、食べる。 ・観察画を描き、絵画表現する。 ・5歳児がカレーづくりに挑戦し、自ら食したり、他の園児にも提供。 ・食育に関する絵本・教材・パネルシアターを使用し、食への興味・関心を深める。 ・移動果樹園では、果樹園の方のお話を聞く。みかんの樹木や実のなり方を観察したり、みかん狩りを体験をし、とれたてのみかんを味わう。 ・米農家作り農家と連携し、お米の生育過程を観察。
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点
6 取組の内容		・畑やプランターで季節ごとの野菜を栽培する。 ・収穫した野菜に触れ、野菜の特徴を感じたり、食べる。 ・5歳児がカレーづくりに挑戦し、自ら食したり、他の園児にも提供。 ・米農家作り農家と連携し、お米の生育過程を観察。
		(継続事業のみ記入) 前年度の取組から発展させた点
		・プランターで野菜を野菜を栽培することで食への興味だけでなく、成長過程にも興味を示せるように関わる。また収穫した野菜だけでなく他の野菜についても積極的野菜の種を植える時期や植え方、水やりの最適な時間帯、収穫時期、野菜の栄養についても知らせていく。 ・日本茶を飲むことで身体にどのような効果があるのかを知らせたり、茶葉のリサイクルで消臭効果を実感できるか考える時間を作る。
事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等
		登園時や帰園時、畑の様子やプランターの栽培中の野菜の様子を観察している姿が多く、食物に対しての興味関心が深まった。他の植物などにも興味を示し、水やりや観察したり興味を示す姿が多くなった。園で育てた野菜を実際に収穫する体験を通して、とれたての新鮮野菜の特徴を感じたり、自分達で収穫できたことに喜んでた。 餅つきでは、使用する道具類を知ることが出来たり、餅つきの事前準備、工程を知ることが出来た。また、年長児はもちつき体験をし、年中・年少児は、年長児になったら経験できることに期待しながら見学をし日本の伝統文化にふれる貴重な経験となった。 米つくりの過程を知ることが出来た事で米の大切さを感じることが出来た。おにぎり作りやカレー作りを経験したことで、自分達で調理したものを食べる楽しさや、人に贈うことで感想や感謝を伝えてもらった時の嬉しさなどを経験をし、更に食への興味や関心が広がったようである。
7 環境構成例		・栽培に必要な道具類、耕運機、野菜の種や苗、培養土、肥料、プランターなどを用意。 ・園児たちが身近に 水やりなど、栽培物の世話が出来る様にじょうろや子ども用のシャベル等の用意と道具コーナー作り。 ・カレー作りに必要な食材、燃料、調理器具などの用意。 ・もちつきに必要なもち米、もちとり粉、道具類、燃料などの用意。 ・日本茶を日常的に飲むことが出来るように ポット、急須、湯呑、茶葉、煎り鍋、燃料などの用意。 ・おにぎりがつくれるようにサランラップ・塩・のりを用意する。 ・食育関連の絵本、パネル、紙芝居などの視覚教材。
事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等
		子ども達が栽培に対して興味を持てるよう、園児の目に留まりやすい場所にプランターを設置したり、じょうろなどの道具も使いやすい場所へ設置をした。自ら進んで水やりを行う姿が見られた。耕運機を使用して畑を耕し、整備を行った。畑全体に様々な野菜を栽培することが出来た。カレーづくり・餅つきは前日に職員で準備と設置したことで、翌日登園してきた子ども達の興味を引き道具について質問をしたり、参加に対する姿勢も積極的だった。日本茶は、茶器などを使用しやすい場所に設置したことで毎日のおちやの時間を楽しむことができた。おにぎり作りでは、食品用の袋で行い、とても扱いやすく年少児も作りやすかった。
8 期待される効果 児童の姿		取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・食の大切さを知り、食に対する興味や関心を持ち、食べる意欲が育つ。 ・野菜の栽培、いもほり、カレー作りを通して食べ物を大切にする気持ちが育ち、食品ロスなどを出さない意識が芽生える。 ・様々な野菜の成長に興味を持ち、他の野菜について調べたり、育ててみようとする気持ちが芽生える。 ・様々な経験を通じて、生産者や料理の作り手への感謝の気持ちが育まれる。 ・食事の仕方、マナーなどを知り、正しい生活習慣を身に付けられるようにする。 ・自分達でカレーづくり・おにぎりづくり・もちつきの経験を通して調理することに興味を示す。 ・もちつきを通して食文化にふれ、興味・関心を持つ。
事業後	8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等
		栽培等を通して食物を育てることの大変さや自然の恵みのありがたさを知り、食の大切さ、食に対する興味・関心、自然の恵みへの感謝の気持ちが深まった。また食べることへの意欲や食品を無駄にしない意識も芽生えた。昼食をつくる工程やみかん狩りの経験を通して作り手や生産者の方々への感謝の気持ちも育まれた。日本特有の食文化にも興味を示し、食事のマナーなども身についた。
9 効果検証総括		事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・畑や園庭での野菜の栽培を通して食育活動を通して、食べ物を大切にする気持ちが育まれた。 ・畑の整備を経験したり、リモートで実際に農家さんと直接話をしたり、季節ごとに畑の様子を見ることができ更に植物栽培や 土の中で育つ野菜の栽培や収穫を通し、身近に土や自然に触れる貴重な体験の機会を得ることが出来た。 ・植物、食物を育てる事の過程を観察を通して、作り手への感謝の気持ちを育むことが出来た。 ・プランターで栽培をする事で、日々の栽培物の変化や成長に気付き、花が咲く事、実のなり方など適時に観察・収穫が出来た。 ・自園給食で使用する食材の量・準備、調理時間・調理の仕方などの話を給食室の方々に教えてもらい、日頃食べている給食のありがたさ、大切さなどを知り、食品ロスを減らす意識も芽生え、SDGsにもつながることが出来た。 ・日本の文化である日本茶について知ること、更に日本の文化・風習について興味を示したり、他の国の文化にも興味・関心を示すようになった。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。